

CASBEE神戸ver.3

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE神戸ver.3/CASBEE 評価（新編）2016年版（使用評価ソフト：CASBEE神戸ver.3/CASBEE-6D_NC_2016(v3.0)）

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)WDB三宮ビル 新築工事	階数	地上9F, 地下1F
建設地	兵庫県神戸市中央区江戸町101番	構造	S造
用途地域	商業地域、法第22条区域、旧居留地	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年2月 予定	評価の実施日	2022年10月19日
敷地面積	1,844 m ²	作成者	松下温紀
建築面積	1,550 m ²	確認日	2022年10月19日
延床面積	11,036 m ²	確認者	酒井國臣



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算
 ①参照値 100%
 ②建築物の取組み 78%
 ③上記+②以外の 78%
 ④上記+ 78%

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 CASBEE神戸 の重要項目

バリアフリー計画	建築物の耐震性等	まちなみ・景観への配慮
Q-2/1.1.3 バリアフリー計画 4.0 配慮の概要 バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準(最低限のレベル)を満たし、建物利用者が安全に利用できるよう努めた計画としている。	Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振 3.0 Q-2/2.4 信頼性 2.6 配慮の概要 〇	Q-3/2. まちなみ・景観への配慮 4.0 配慮の概要 〇旧居留地都市景観形成地域の景観形成基準に適合し、良好なまちなみを目指している。
その他の配慮事項		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新)
(仮称)WDB三宮ビル 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD_

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.2
Q1 室内環境					0.40		-		3.3
1 音環境				3.2	0.15		-		3.2
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.40		-		
1.2 遮音				3.0	0.40		-		
1 開口部遮音性能				3.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能				3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-		-		
1.3 吸音		執務エリア:床はタイルカーペット、天井は岩綿吸音板を採用		4.0	0.20		-		
2 温熱環境				2.9	0.35		-		2.9
2.1 室温制御				3.7	0.50		-		
1 室温				3.0	0.38		-		
2 外皮性能				3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性		ゾーン別の冷暖房の自由選択		5.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20		-		
2.3 空調方式				3.0	0.30		-		
3 光・視環境				3.2	0.25		-		3.2
3.1 昼光利用				1.8	0.30		-		
1 昼光率				1.0	0.60		-		
2 方位別開口					-		-		
3 昼光利用設備				3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-		
1 昼光制御				3.0	1.00		-		
3.3 照度		執務エリア:平均照度800lx以上		4.0	0.15		-		
3.4 照明制御		1作業単位での照明制御可能		5.0	0.25		-		
4 空気環境				3.9	0.25		-		3.9
4.1 発生源対策				4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質		床・壁・天井・建具は、F☆☆☆☆の規格適合の建築材料を採用		4.0	1.00		-		
4.2 換気				3.6	0.30		-		
1 換気量		建築基準法上の必要換気量の5.73倍		5.0	0.33		-		
2 自然換気性能				3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33		-		
4.3 運用管理				4.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御		ビルが全面禁煙		5.0	0.50		-		
Q2 サービス性能				-	0.30		-		3.2
1 機能性				3.0	0.40		-		3.0
1.1 機能性・使いやすさ				2.6	0.40		-		
1 広さ・収納性				3.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たす		4.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				3.6	0.30		-		
1 広さ感・景観		事務室の天井高:2.7m		4.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース		5Fリフレッシュスペース:7.36%		4.0	0.33		-		
3 内装計画				3.0	0.33		-		
1.3 維持管理				3.0	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.0	0.30		-		3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:カーペット、内壁:ビニルクロス、天井:ボード類		5.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水:VP(B)、排水:VP(B)、消火:SGP(C)		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				2.6	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20		-		
3 電気設備				3.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6	
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-		
1	階高のゆとり	階高最小高さ: 4.0m	5.0	0.60	-	-		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率: 0.136	4.0	0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-		
3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-		
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
5	設備機器の更新性	仮設スペースの確保可能	4.0	0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保	バックアップ設備用スペースの確保可能	4.0	0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1	
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			景観形成基準に基づいたまちなみ景観に取り組んでいる		4.0	0.40	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3	
1 建物外皮の熱負荷抑制			[BPI _m]= 0.92	3.7	0.20	-	3.7	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m] = 0.71	3.9	0.50	-	3.9	
4 効率的運用				2.0	0.20	-	2.0	
集合住宅以外の評価				2.0	1.00	-		
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-		
4.1	モニタリング		-	-	-	-		
4.2	運用管理体制		-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8	
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1 節水			自動水栓、人感センサー小便器、擬音装置採用		4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8	
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.20	-	-	2.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-		
1	消火剤		-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-		
3	冷媒		2.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33	-	-	3.8	
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4	
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-		
1	騒音		3.0	1.00	-	-		
2	振動		-	-	-	-		
3	悪臭		-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-		
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドライン及び広告物照明の扱い基準に配慮	4.0	0.70	-	-		
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-		